

財 団 報

Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders

2014. 9 No. 7

目 次

ご挨拶	理事長 児玉 龍彦	1
I 平成 25 年度事業報告		2
1. 年間の経緯		2
2. 事業について		4
1) 交付事業	i) 研究助成金、ii) 海外留学補助金	4
2) 研究報告会		8
3) 表彰（最優秀理事長賞、竹中奨励賞）		9
4) 講演（特別講演、竹中奨励賞受賞講演）		10
5) 交流会風景		11
6) 第 43 回助成研究報告集		11
3. 会計報告		12
II 平成 25 年度最優秀理事長賞・竹中奨励賞受賞者、研究助成金・海外留学補助金交付者からのお便り		13
寄稿者一覧		13
最優秀理事長賞	河村 和弘、久原 篤、林 久允	15
竹中奨励賞	井手上 賢	18
研究助成金	有田 恭平、池ノ内 順一、内田 裕之、大木 理恵子、 甲斐田 大輔、神沼 修、河合 太郎、菊知 充、國信 洋一郎、 鈴木 志穂、竹居 光太郎、半田 浩、平田 多佳子、廣田 泰、 福田 晃久、前島 裕子、松井 広	19
海外留学補助金	池内 和忠、伊藤 達也、今西 明子、小澤 未央、杉浦 唯久、 田中 雅史、西川 信之、羽藤 泰、古橋 和弘、本蔵 直樹	36
III 財団概要		46
1. 沿革		46
2. 目的		46
3. 事業		46
4. 事業内容		46
5. 組織と人員		47
6. 役員・評議員		48
7. ご退任役員		49
設立趣意書		49
IV ご寄付の報告とお願い		50
事務所移転のご案内		51
平成 25 年度の財団トピックス		52
編集後記		53

公益財団法人アステラス病態代謝研究会

注記

- ◆ この財団報は、平成26年（2014年）6月7日開催の平成26年度第1回定例理事会を経て、6月23日開催の平成26年度定時評議員会で承認された「平成25年度事業報告および収支報告」に基づいて、当財団の平成25年度（2013年4月1日～2014年3月31日）の事業内容を取りまとめ、発行するものです。
- ◆ 本報告書・助成対象一覧の所属機関は、研究助成金は交付時、海外留学補助金については申請時のものであり、それ以降の変更は一部を除き原則として反映させていません。

福島の子どもの 最新の甲状腺がん治療を

児玉 龍彦

公益財団法人 アステラス病態代謝研究会 理事長
東京大学 アイソトープ総合センター センター長
東京大学 先端科学技術研究センター システム生物医学 教授



福島原発事故のために現地の支援を続けている。その中で、多くの県民から聞かれるのが、甲状腺がん検診で福島のたくさんの子どもに甲状腺がんが見つまっていることへの心配である。

厚生労働省の2010年の推計では、甲状腺がんの罹患率は、10歳未満はゼロ、10歳から14歳で10万人あたり0.1人、15歳から19歳で1.1人とされていた(1)。だが、福島の子どもの甲状腺検査で、原発事故当時、18歳以下であった子どもの8割超の人達を中心とした25万人以上が受診した結果を見ると、2070人が二次検査に回り、そのうちの1593人の結果が判明し、90人が甲状腺がんまたはその疑いとなった。50名が手術を受け、49名が甲状腺乳頭がんと診断された。10万人あたりでは、20名を超えることとなる(2)。

甲状腺がんの比率は、日本では毎年増えており、罹患数は、1975年には、患者数が1691人、死亡数が577人だったのが、2010年には、患者数が13374人に對し、死亡数が、1669人になっている。お隣の韓国では約5千万人の人口に對し、患者数が4万人と多いのに死亡数は約300人である。超音波検査等の普及により甲状腺の結節が見つかりやすくなるとともに、甲状腺がん自体が増えていることがあると思われる。

ゲノム解析から、甲状腺がんを起こす遺伝子異常が急速に明らかになってきた。世界のTCGAの報告では399例のゲノム解析が終わり(3)、増殖因子受容体のRET遺伝子変異が6%、RAS変異が13%、BRAF変異が62%、PPARG融合遺伝子が1%、重なりを除いて82%で変異が同定されている。

BRAFの変異は、そのほとんどが、600番目のバリンがグルタミン酸になっているというキナーゼ活性化変異であり、その阻害剤の有効性が検討されている。BRAFのバリン→グルタミン酸変異をもつ甲状腺がんに、この変異した酵素を特異的に抑制するVemurafenibの効果が報告され始めている(4)。

ここで注意すべきは、BRAF阻害剤はメラノーマなどで、よい効果が知られるが、RASの変異したがん細胞ではBRAF阻害剤は悪性を促進することである(5)。そのため、ゲノム解析と並行して治療す

る事が大事である。

これまで甲状腺がんでは、甲状腺全摘やリンパ節廓清¹⁾など予防的な対応が一般的に行われてきたが、例数が増えてくると、反回神経麻痺や、リンパ液のもれ、副甲状腺機能低下によるけいれんなどの副作用もあり、なにより生涯にわたる甲状腺ホルモンの補充はこどもの患者さんには大きな負担となる。腫瘍部の部分切除を基本にリンパ節廓清も限定的にし、薬物治療も含めた最新の治療法について検討し、セカンドオピニオンも含む選択肢を患者さんと家族が選べる体制を作るべきであろう。

福島の子どものスタートした甲状腺検診を、ゲノム解析から治療法選択に役立てる事、そして最新の治療を患者のこどもさんたちに提供することが国民の責務であろう。それは世界で飛躍的に診断の増加傾向にある早期甲状腺がん治療に新しい地平を開く第一歩になるであろう。

当財団でも、医学研究の進歩を活かし、福島の子どもを応援していきたい。

1. 国立がん研究センターがん情報サービス
<http://ganjoho.jp/public/statistics/pub/statistics02.html>
2. 福島甲状腺検査結果は下記サイトで見られる。
<http://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/result/>
3. TCGAのゲノム解析結果は下記で検索できる。
Select cancer study で thyroid cancer, TCGA provisionalを選び、Gene symbolにBRAFなどを入力すると出てくる。
<http://www.cbioportal.org/public-portal/>
4. Extended Antitumor Response of a BRAF V600E Papillary Thyroid Carcinoma to Vemurafenib.
Ali SM, et al. Case Rep Oncol. 2014 May 24; 7(2):343-8
5. Chapman PB, et al. Improved survival with vemurafenib in melanoma with BRAF V600E mutation. N Engl J Med. 2011; 364:2507-16

¹⁾ がんを切除する際に、転移の有無にかかわらず、周囲のリンパ節を摘出すること。(編集者注)

(2014年8月 記)

I 平成25年度事業報告

1 年間の経緯

平成25年（2013年）

- 4月 1日 平成25年度研究助成金・海外留学補助金の応募要領公開（財団ホームページ）
（募集期間：平成25年4月 1日～6月15日）
- 6月 8日 第1回定例理事会
- 平成25年度定時評議員会招集の件
 - 平成24年度事業報告、収支報告の件
 - 研究助成資金規程の一部変更の件
 - 公益目的事業資金規程の一部変更の件
- 財団法人医薬資源研究振興会の事業継承時に引き継いだ残余財産を「研究助成資金」として管理し、毎年度5,000万円ずつ取崩して公益目的事業に使用している。その場合、毎年度の研究助成資金の運用益を優先的にその年度に使用することが必要であるが、そのようにしているかとの問合せが内閣府公益認定等委員会よりあった。そのようにしていたが、その旨を規程に明記した。
- 理事長・専務理事 業務執行報告
 - 今後の財団活動の方向性について
- 6月24日 定時評議員会
- 評議員辞任に伴う後任者選出の件
- 退任：石井康雄氏（アステラス製薬代表取締役副会長退任に伴い辞任）
後任：野木森雅郁氏（アステラス製薬代表取締役会長）
退任：神谷一夫氏（税理士、都合により辞任）
後任：中村正彦氏（税理士）
- 平成24年度事業報告、収支報告の件
 - 研究助成資金規程の一部変更の件
 - 公益目的事業資金規程の一部変更の件
 - 平成24年度第2回、第3回および平成25年度第1回定例理事会報告の件
 - 今後の財団活動の方向性について
- 臨時評議員会
- 評議員会長選定の件
- 出席新評議員の互選(全員が信任)により、野木森雅郁氏（アステラス製薬代表取締役会長）が評議員会長に選定された
- 8月 1日～31日 選考委員による研究助成金・海外留学補助金申請書個別評価
- 9月11日 内閣府公益認定等委員会による立入検査(公益法人移行後、初めてとなる)
内閣府公益認定等委員会からの来訪者：企画官と政策企画調査官の2名
所要時間：10時から17時（1時間の昼休み含む）。
内容：①財団から活動に関して説明
②事務所確認（看板・環境、印鑑・通帳保管場所）
③資料類（規程類、議事録等）のチェックおよびヒアリング
④資産財産関係現物・証憑等の チェックおよびヒアリング
⑤総括

【結論】「特段大きな問題点はない。よって書面にて改善を求めることもしない。」

以下3点につき口頭での対応指示があった。

- ① 「備え置き資料」に「特定資産に関する資料」を盛り込むこと。
- ② 監査報告書には結論のみでなく、監査の方法を記載すること。
- ③ 通帳や重要書類の保管に関する規程を作成すること。

- 9月15日 財団報No.6（平成24年度財団活動のまとめ）発行
- 10月19日 選考委員会
- 平成25年度研究助成金および海外留学補助金交付者選出・交付総額の件
- 第2回定例理事会
- 平成25年度研究助成金および海外留学補助金交付者・交付総額の件
 - 平成24年度財務諸表の一部修正の件
 - 内閣府公益認定等委員会による立入検査実施報告の件
 - 理事長・専務理事 業務執行報告
- 第44回研究報告会

平成26年（2014年）

- 2月 1日 第1回定例学術委員会
- 平成26年度研究助成金・海外留学補助金
応募要領、申請書用紙および評価方法ガイドラインの件
 - 学術委員候補者選出の件
- 第3回定例理事会
- 平成25年度事業報告・仮収支報告（平成25年4月1日～12月31日）の件
 - 平成26年度事業計画・収支予算書の件
 - 平成26年度研究助成金・海外留学補助金
応募要領、申請書用紙および評価方法ガイドラインの件
 - 学術委員候補者の件
 - 第45回研究報告会開催の件
 - 理事長・専務理事 業務執行報告
- 2月 6日 臨時選考委員会
- 平成25年度研究助成金交付者1名の辞退を受け、1名繰り上げ合格させる件
- 2月21日 臨時理事会
- 平成25年度研究助成金交付者1名の辞退を受け、1名繰り上げ合格させる件
- 2月27日 臨時理事会
- 事務所移転の件
財団事務所が入っている信和ビル（東京都中央区日本橋本町2-2-10）の解体決定を受け、3月10日付で新ビル（室町古河三井ビルディング、東京都中央区日本橋室町2-3-1）に移転することになった。
移転登記に理事会議決（議事録）が必要なため、急遽臨時理事会を開催した。
- 3月 1日 平成25年度海外留学補助金交付者発表
- 3月10日 財団事務所移転日
- 3月31日 第43回助成研究報告集発行
- ☆なお、理事の長野哲雄先生（東京大学名誉教授、同大学 創薬オープンイノベーションセンター 特任教授）が自己都合により、3月31日に辞表を提出、退任されました。次年度6月が改選期なので、後任者はその時に決定することとしました。

2 事業について

1) 交付事業

i) 研究助成金

公募テーマを「疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究」と定め、平成25年4月1日～6月15日の期間に公募を実施しました。

593名（女性114名）の応募があり、各選考委員による個別評価を経て、平成25年10月19日開催の選考委員会にて交付者候補が選出され、同日開催された理事会で対象者52名（女性11名）が決定されました。本決定に基づき、総額1億400万円を11月から振込先の準備（委任経理金手続等）ができ次第順次、交付しました。交付金額は、今年度から1件当たり2倍の200万円となりました。

なお、平成26年1月に女性交付者1名が、東北大学よりPMDA（医薬品医療機器総合機構）に異動したため、交付辞退の旨の連絡があったので、臨時選考委員会および臨時理事会を開催し、女性次点者1名の繰り上げを決定しました。

ii) 海外留学補助金

平成25年5月から平成26年4月の期間に留学を開始する研究者を対象として平成25年4月1日～6月15日の期間に公募を実施しました。186名（女性32名）の応募があり、平成25年10月19日開催の選考委員会で交付候補者10名が選出され、同日開催された理事会で内定者10名が決定されました。

なお、その後、内定者の中に①日本学術振興会からの助成金交付が決定した、②他の民間財団から200万円を超える助成金交付が決定した、③就職が決定した、④受け入れ先が変更となった、⑤留学先からDS-2019が取得できなかったなどの理由で当財団からの交付を辞退される方が8名出ました。その都度、次点者を順次繰り上げ、平成26年2月末に10名（女性2名）の交付者を最終的に確定し、年度末までには総額2,000万円を交付することができました。

平成25年度研究助成金・海外留学補助金公募および交付実数

研究助成金・海外留学補助金申請者数・交付者数・交付金額

項 目	申請者数 (女性)	交付者数 (女性)	交付金額 研究助成金* 1件：200万円 海外留学補助金 1件：200万円
研究助成金	593名 (114名)	52名 (11名)	10,400 万円
海外留学補助金	186名 (32名)	10名 (2名)	2,000 万円
総 計	779名 (146名)	62名 (13名)	12,400 万円

*：研究助成金は、平成25年度から、1件当たり200万円と倍増しました。

平成25年度（第45回）研究助成金交付者一覧

テーマ：疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究（52名）

（五十音順・敬称略）

No.	氏 名	所属機関（交付時）	研究テ マ
1	有田 恭平	横浜市立大学大学院 生命医科学研究科 構造生物化学研究室	エピゲノム情報の統合機構の構造生物学的基盤
2	池ノ内 順一	九州大学大学院 理学研究院 生物科学部門 代謝生理学教室	上皮細胞特異的な脂質分子種の機能解析
3	池水 信二	熊本大学大学院 生命科学研究部 機能分子構造解析学分野	IL-23と受容体の構造生物学的認識機構の解明
4	石津 大嗣	東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻	機能性小分子RNAによる遺伝子発現抑制機構の解明
5	内田 裕之	慶應義塾大学 医学部 精神・神経科学教室	統合失調症・躁うつ病患者のレジリエンス：二国間研究
6	大木 理恵子	国立がん研究センター研究所 難治がん研究分野	PHLDA3は内分泌腫瘍の新規がん抑制遺伝子である
7	大塚 文男	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 総合内科学分野	BMPに着目した新たな生殖内分泌調節機構とその応用
8	岡島 徹也	名古屋大学大学院 医学系研究科 機能分子制御学	細胞外O-GlcNAcによるNotchシグナル制御
9	沖米田 司	関西大学大学院 理工学部 生命科学科 生命医化学専攻	閉塞性肺疾患に関わる膜タンパク質の膜発現制御機構
10	小布施 力史	北海道大学大学院 先端生命科学研究院 分子細胞生物化学研究室	DNA損傷応答におけるヘテロクロマチン因子の役割
11	甲斐田 大輔	富山大学 先端ライフサイエンス拠点	mRNAスプライシング異常による発がん機構の解析
12	柏田 正樹	自治医科大学大学院 医学研究科 生化学講座 病態生化学部門	概日リズムとアレルギー性疾患発症機構のクロストーク
13	神沼 修	東京都医学総合研究所 ゲノム医科学研究分野 花粉症プロジェクト	遅発型喘息反応のT細胞による新たな発症機構の解明
14	河合 太郎	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 分子免疫制御	自然免疫による内在性因子認識と炎症誘導シグナル伝達
15	菊地 晴久	東北大学大学院 薬学研究科 医薬資源化学分野	天然抽出物の直接化学変換による新規化合物群の創出
16	菊知 充	金沢大学 子どものこころの発達研究センター	広汎性発達障害の早期診断のための診断システム開発
17	國信 洋一郎	東京大学大学院 薬学系研究科 有機合成化学教室	医薬品合成を志向するC-H結合CF ₃ 化反応の創出
18	古賀 貴子	東京大学大学院 医学系研究科 免疫学教室	免疫グロブリンによる骨粗しょう症のメカニズム
19	後藤 孔郎	大分大学 医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座	メタボリック症候群の発症予防における脾臓の役割
20	坂根 亜由子	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 分子病態学分野	癌細胞の運命を決める細胞形態のスイッチングのしくみ
21	柴田 淳史	群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット 生活習慣病分野	抗腫瘍免疫応答増強へ向けたDNA損傷応答の解析
22	鈴木 志穂	東京大学 医科学研究所 社会連携研究部門 細菌感染生物学	病原細菌の感染機構および宿主免疫応答の解析
23	高島 誠司	京都大学大学院 医学研究科 遺伝医学講座 分子遺伝学分野	新規生殖細胞毒性試験系の開発
24	高野 和儀	千葉大学大学院 融合科学研究科 ナノサイエンス専攻 ナノバイオロジーコース	肥大型心筋症における筋原線維形成の分子機構
25	高橋 秀依	帝京大学 薬学部 有機化学研究室	アミド及びウレアの軸不斉の解明と創薬への応用
26	高橋 弘雄	奈良県立医科大学 先端医学研究機構 脳神経システム医科学分野	嗅覚を用いた脂質代謝異常の治療法の開発
27	竹居 光太郎	横浜市立大学大学院 生命医科学研究科 生体医科学部門 生体機能医科学研究室	神経障害に対する診断・治療薬の創成
28	塚崎 智也	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 膜分子複合機能学	細菌における外膜蛋白質を形成させる分子装置の解明
29	土屋 恭一郎	東京医科歯科大学 医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科	内皮細胞の代謝シグナルに注目した臓器機能調節機構
30	中川 勇人	東京大学大学院 医学系研究科 消化器内科学	炎症・ストレスによる多重並行ヒットとNASH発症
31	仲矢 道雄	九州大学大学院 薬学研究院 薬効安全性学	心筋梗塞時における筋線維芽細胞の役割解明
32	名黒 功	東京大学大学院 薬学系研究科 細胞情報学教室	生体の浸透圧ストレスの受容・応答機構の解明

33	西田 基宏	岡崎総合バイオサイエンスセンター 心循環シグナル研究部門	活性硫黄を標的とした心血管病予防治療法の開発
34	林 悠	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構	レム睡眠の意義の解明
35	半田 浩	国立国際医療研究センター 研究所 分子炎症制御プロジェクト	結核菌感染下での免疫抑制レセプターの役割と機能解析
36	平田 多佳子	滋賀医科大学 医学部 医学科 生命科学講座 (生物学)	リンパ球動態を制御するS1P受容体の内在化機構
37	平原 潔	千葉大学大学院 医学研究院 先進気道アレルギー学寄附講座	慢性真菌感染症を呈する免疫疾患の新規治療標的の同定
38	廣田 泰	東京大学 医学部 産婦人科	着床における子宮の胚受容能獲得の分子機構の解明
39	福田 晃久	京都大学 医学部附属病院 消化器内科学	膵臓がんにおけるクロマチンリモデリングの役割
40	福山 征光	東京大学大学院 薬学系研究科 生理化学教室	神経前駆細胞の栄養状態に応答した再活性化機構の解明
41	前島 裕子	福島県立医科大学 腫瘍生体エレクトロニクス講座	オキシトシンによる摂食リズム創出神経経路の解明
42	槇田 紀子	東京大学 医学部 腎臓内分泌内科 内分泌病態学	GPCRシグナル調節機構とその異常による疾患の解明
43	松井 広	東北大学大学院 医学系研究科 新医学領域創生分野	脳虚血神経障害発生メカニズムの解明と光制御の可能性
44	松崎 有未	東京医科大学 医学総合研究所 細胞センター	E3ユビキチン化酵素を標的とした組織線維化の制御
45	松田 七美	早稲田大学大学院 先進理工学研究所 生命医科学専攻 分子生化学研究室	細胞競合による代謝を介した組織恒常性と癌の制御機構
46	丸山 健太	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 自然免疫学	破骨細胞融合阻害活性を持つ液性因子の同定
47	三浦 恭子	慶應義塾大学 医学部 生理学	ハダカデバネズミの超老化耐性・がん化耐性機構の解明
48	森田 洋行	富山大学 和漢医薬学総合研究所 資源開発部門 天然物化学分野	植物ポリケタイド合成酵素へのアミノ酸欠損変異の導入
49	森本 善樹	大阪市立大学大学院 理学研究科 物質分子系専攻 合成有機化学研究室	複雑な分子の創薬開発を可能にする分子技術の創出
50	山澤 一樹	慶應義塾大学 医学部 小児科学教室	先天異常症候群におけるメチル化・ヒドロキシメチル化
51	山中 章弘	名古屋大学 環境医学研究所 ストレス受容/応答研究部門 神経系分野2	投射経路特異的な神経活動操作による情報統合機構解明
52	吉岡 和晃	金沢大学 医薬保健研究域医学系 血管分子生理学分野	血管健常性を維持する新規内皮発現分子の病態生理研究

平成25年度（第45回）海外留学補助金交付者一覧

交付者数：10名

(五十音順・敬称略)

No.	氏 名	所属機関(申請時)	研究テーマ	留学先施設名
1	池内 和忠	静岡県立大学大学院 薬学研究科 医薬品製造化学教室	新規プレニールインドールアルカロイドの合成研究	コロラド州立大学
2	伊藤 達也	京都大学 医学部附属病院臨床研究 総合センター開発企画部	国際水準の臨床開発のためのARO機能に関する研究	ブリストル大学
3	今西 明子	大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学	カエル皮膚抗菌ペプチドによる創傷治癒 促進効果の検討	マンチェスター大学
4	小澤 未央	九州大学大学院医学研究院 環境医学分野久山町研究室	食事と軽度認知機能障害：認知症の前駆 状態	ロンドン大学
5	杉浦 唯久	東京女子医科大学 心臓血管外科学講座	tissue-engineered人工血管の研究	オハイオ州立大学 ネイションワイド・ チルドレンズ・ホスピタル
6	田中 雅史	東京大学大学院 人文社会系研究科 心理学研究室	鳴禽の線条体疾患モデルにおける 神経機能障害	デューク大学
7	西川 信之	名古屋大学大学院 医学研究科 細胞生理学分野	上皮細胞腫に着目した 間質性膀胱炎新規治療標的の探索	ブリストル大学
8	羽藤 泰	慶應義塾大学 医学部 外科学教室 呼吸器外科	がんの細胞集塊型転移の分子機構の解明	マサチューセッツ総合病院 放射線生物学教室 エドウィン L. スティール腫瘍生物学研究室
9	古橋 和拓	名古屋大学大学院医学系研究科 腎臓内科学	進行性腎炎におけるTNFR1、TNFR2の 役割	ブリガム・アンド・ウーマンズ・ホスピタル病理部 ハーバード・メディカル・スクール
10	本蔵 直樹	愛媛大学大学院医学系研究科 分子病態医学分野	非線形光学イメージングを用いた 血管漏出の制御機構	ウブサラ大学 ルードベック研究所

活動風景 選考委員会



真剣に討議する各委員

2) 研究報告会

平成24年度（第44回）研究助成金交付者84名による研究報告会を、平成25年10月19日東京・秋葉原UDXにて開催しました。1名が海外研究機関への短期留学中のため、2名が海外での学会出席のため、また、1名が当日体調不良のため研究報告会を欠席されましたので、報告者（口頭発表者）は80名でした。当財団では、この報告会を「研究者ご本人と選考委員との議論の場」と位置付けていることから代理発表は認めていません。そのため、欠席者3名からは、事前に理事長宛てに研究報告書を提出していただきました。当日、急遽欠席された1名からも後日報告書を提出していただきました。なお、必要に応じて、理事長による欠席者へのヒアリングも実施しています。

研究報告会風景



開会挨拶をする
児玉龍彦理事長



第44回 研究報告会	
日 時 ：2013年10月19日（土）11:00～17:30 場 所 ：秋葉原 UDX4 4F（駐車 1000～） 〒100-0001 東京都千代田区千代田 2-1-1 UDXビル4F	
・研究報告会	GALLERY 11:00～17:30
第1会場 NEXT-1	11:10～17:15
第2会場 NEXT-2	11:10～17:25
・質疑応答会	GALLERY 12:00～13:10
・午後の自由席	GALLERY 13:10～16:20
・夕食会	GALLERY 18:20～19:20

研究報告会プログラム



3) 表彰

i) 表彰1. 最優秀理事長賞

平成25年10月19日開催の研究報告会で優れた研究成果を発表した研究者3名（口頭発表を聞いた選考委員による投票により、各発表会場から1名ずつ選ばれる）に最優秀理事長賞として表彰状と副賞（1件100万円、総額300万円）を後日授与しました。

第44回最優秀理事長賞3名（1件100万円）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関（交付時）	研究テーマ
河村 和弘	聖マリアンナ医科大学 産婦人科	早発閉経の卵胞活性化に着目した新規不妊治療法の開発
久原 篤	甲南大学 理工学部 生物学科 生体調節学	動物の低温耐性の分子生理メカニズム
林 久允	東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬物動態学教室	小児性肝内胆汁うっ滞症の新規診断法及び治療薬の開発



河村 和弘 先生



久原 篤 先生



林 久允 先生

ii) 表彰2. 竹中奨励賞

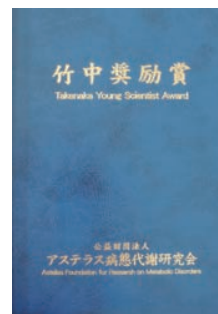
平成25年10月19日開催の研究報告会での発表者の中から、今後の活躍が期待される若手研究者1名（口頭発表を聞いた選考委員の投票により決定）に竹中奨励賞として表彰状と副賞（50万円）を後日授与しました。

第2回竹中奨励賞（1名）

氏名	所属機関（交付時）	研究テーマ
井手上 賢	熊本大学大学院 自然科学研究科 生命科学講座	セントロメア由来 RNA による染色体分離制御の解析



井手上 賢 先生



4) 講演

i) 特別講演

前年度の研究助成金交付者による研究報告会では毎回、昼食後の時間帯に当財団役員等による特別講演を行ってまいりました。今回は、当財団学術委員である東北大学大学院 医学系研究科 大隅典子教授による特別講演「加齢性難聴のアンチエイジングモデルマウス：その発見とメカニズム解析」を実施いたしました。研究会にご出席の多くの研究者がご聴講くださいました。



ご講演中の大隅典子先生



座長の尾崎紀夫先生



秋葉原UDX・GALLERYを埋める満員の聴衆

ii) 竹中奨励賞受賞講演

特別講演に引き続き、平成24年度竹中奨励賞の栄えある第1回受賞者である国立遺伝学研究所 構造遺伝学研究センター 多細胞構築センター 助教 伊原伸治先生による受賞講演会を行いました。受賞対象となったご研究について、その後の進展を含めてご紹介いただきました。質疑応答ののち、研究会にご出席の多くの研究者からの盛大な祝福の拍手により、その栄誉を称えました。なお、本賞副賞の資金をご寄附くださった竹中登一氏もこの講演会に参加してくださいました。



前年度の授与式



講演中の伊原伸治先生



座長の上杉志成先生

5) 交流会風景（第4回交流会）



挨拶をする野木森評議員会長



6) 第43回助成研究報告集

平成23年度（第43回）研究助成金を受けて実施された研究をまとめた報告集「第43回助成研究報告集」を、平成26年3月に刊行しました。

この報告集は平成23年度に研究助成を受けられた方々から、平成25年10月までにご報告いただいた研究成果をまとめたものです。知的財産権などを考慮して、発行をこの時期まで遅らせています

なお、平成19年度 第39回以降の研究報告集は、当財団ホームページの「その他」→「刊行物」サイトにて電子ブック形式で公開しています。下記のURLよりアクセスしてみてください。

<http://www.astellas.com/jp/byoutai/index.html>



3 会計報告（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

1）貸借対照表（平成26年3月31日現在）

（単価：円）

科 目	当年度（A）	前年度（B）	増減（A）－（B）
I 資産の部			
1. 流動資産			
預金	22,163,682	17,485,318	4,678,364
流動資産合計	22,163,682	17,485,318	4,678,364
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券（株式含む）	2,430,930,896	2,119,214,281	311,716,615
預金	357,225,509	509,551,937	△152,326,428
基本財産合計	2,788,156,405	2,628,766,218	159,390,187
(2) 特定財産			
1) 研究助成資金			
投資有価証券	514,159,109	499,478,129	14,680,980
預金	129,352,454	193,993,499	△64,641,045
2) 竹中奨励賞資金			
預金	9,006,226	9,503,426	△497,200
3) 公益目的事業資金			
預金	371,290,970	375,970,070	△4,679,100
4) 法人会計資金			
預金	10,000,000	10,000,000	0
特定資産合計	1,033,808,759	1,088,945,124	△55,136,365
(3) その他固定資産			
什器備品	6,166,125	4,928,700	1,237,425
減価償却累計額	△1,657,180	△671,440	△985,740
その他固定資産合計	4,508,945	4,257,260	251,685
固定資産合計	3,826,474,109	3,721,968,602	104,505,507
資産合計	3,848,637,791	3,739,453,920	109,183,871
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,543,806	2,688,979	△1,145,173
流動負債合計	1,543,806	2,688,979	△1,145,173
負債合計	1,543,806	2,688,979	△1,145,173
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	436,712,331		436,712,331
指定正味財産合計	1,584,223,199	1,544,026,344	40,196,855
(うち基本財産への充当額)	550,414,440	455,081,220	95,333,220
(うち研究助成資金への充当額)	1,033,808,759	1,088,945,124	△55,136,365
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,262,870,786	2,192,738,597	70,132,189
正味財産合計	2,237,741,965	2,173,684,998	64,056,967
負債および正味財産合計	3,847,093,985	3,736,764,941	110,329,044
負債および正味財産合計	3,848,637,791	3,739,453,920	109,183,871

2）正味財産増減計算書

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	175,377,573	136,159,915	39,217,658
(2) 経常費用			
①事業費	153,407,829	128,953,832	24,453,997
②管理費	9,077,555	8,840,829	236,726
経常費用計	162,485,384	137,794,661	24,690,723
評価損益等調整前当期経常増減額	12,892,189	△1,634,746	14,526,935
基本財産評価損益等	57,240,000	89,640,000	△32,400,000
評価損益等計	57,240,000	89,640,000	△32,400,000
当期経常増減額	70,132,189	88,005,254	△17,873,065
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	70,132,189	88,005,254	△17,873,065
一般正味財産期首残高	2,192,738,597	2,104,733,343	88,005,254
一般正味財産期末残高	2,262,870,786	2,192,738,597	70,132,189
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	90,040,000	11,010,000	79,030,000
基本財産運用益	11,691,810	11,691,810	0
特定資産運用益	4,093,992	6,721,095	△2,627,103
基本財産評価益	95,333,220	149,295,420	△53,962,200
一般正味財産への振替額	△160,962,167	△117,909,479	△43,052,688
当期指定正味財産増減額	40,196,855	60,808,846	△20,611,991
指定正味財産期首残高	1,544,026,344	1,483,217,498	60,808,846
指定正味財産期末残高	1,584,223,199	1,544,026,344	40,196,855
III 正味財産期末残高	3,847,093,985	3,736,764,941	110,329,044